

誌上講座

介護とケアメン

第3回



立命館大学 著業社会学部
教授 つづめ まさとし
津止 正敏

立命館大学大学院社会学研究科修士課程修了。京都市社会福祉協議会(地域福祉創造基盤財團)の第2001年から現職。
2009年3月に「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」を発足させ、専務会長に就任。著書に『ケアメンを生きる—男性介護者100人へのエール—』『男性介護者自慢一家族介護者支援への挑戦—』など。

「介護退職ゼロ」を社会運動に

介護者の役割を当然視された嫁たちの異議申し立てを描いて社会に警鐘を鳴らした有吉佐和子さんの『恍惚の人』(1972年)は未だに私たちに鮮明に記憶されている。映画化もされ繰り返し放映されているということもあるが、高齢者問題といえばすぐにもこの作品が頭に浮かんでくるのは深い理由がある。介護を家族だけに背負わせていいのか、と嫁・昭子が発した異議申し立てを遠い過去のこととしてではなく、いまもなお発し続けなければならないという貧しい介護政策の現実と深く共振するからである。

「この小説で社会にお役に立ったことがあるとしたら、それは、自分にカンケイないと思っていた人に、『みんなカンケイのある問題なんですよ』ということを思い知らせた、という功績があるのではなかろうか。どう?」
—これは有吉さんが昭子を演じた高峰秀子さんとの対談で記していることだ(高峰秀子『いっぴきの虫』文春文庫)。

働きながら介護する人(ワーキングケアラー)が290万人という時代。私たちもまた有吉さんらに学んで、介護と仕事の両立支援は「みんなの問題」と発信していくのではないか。

いま始まっているその試みを紹介しようと思う。

1つは〈私たちのメッセージ〉。男性介護者と支援者の全国ネットワークが全国の男性介護者の会や集いを主宰する団体に呼び掛け開催した「ケアメン・サミットJAPAN」(2013年11月16日・17日、京都市)で確認されたものだ。

〈私たちのメッセージ〉

全国100万人の男性介護者に、いま・ここに介護を生きる仲間として連帯のメッセージを送ります。

1. かたろう!男の介護
2. つたえよう!私の介護体験
3. ひろげよう!介護の仲間と集い
4. かえよう!介護保険と介護休業
5. なくそう!介護退職と介護事件

私たちは「介護の日」を記念し、この5つのスローガンを掲げて「ケアメン・サミット J A P A N」を開催しました。介護によって仕事が断念され暮らしが破壊されることなく、その両立を目指す取り組みを、私たちの重要なミッション(使命)と確認しました。「介護退職ゼロ」の雇用環境と、「介護する人・される人」を社会で支える包括的な介護支援制度の実現です。介護される人の幸せも介護者の幸せも共に尊重される社会でなければなりません。(以下略)

もう1つは「介護離職ゼロをめざすための要望書」。

これは昨年9月に樋口恵子氏が呼び掛け厚生労働大臣に提出したものだが、次の3項目を掲げている。

- 一、企業に対して、育児における「くるみん[※]」のような介護の環境整備の基準をつくり、政府の認証制度による普及・推進をはかること(政府)
- 二、仕事と介護の両立に向けて、介護が持つ特徴に照らし、さらに柔軟で多様な就労システムをつくること(政府・企業・労働組合)
- 三、介護保険制度の運用に際して、就労している家族介護者の増大を踏まえ、担当職員に仕事と介護両立支援について周知すること(政府・自治体・介護保険事業者)

上記の〈メッセージ〉にも〈要望書〉にも、いま・ここで働きながら介護して暮らす多くの人の願いが集約されている。「介護退職ゼロ」を可能とする雇用環境と、孤立しがちな介護する人・される人を支える包括的な介護支援制度の実現だ。家族の中に誰一人不幸な介護事件の被害者も加害者もつくってはならないのだ。そのための社会運動だ。

※くるみん

厚生労働省が認定した従業員育て支援事業の愛称。次代の社会を担う子どもたちが健やかに生まれ、育成される環境整備を進めることで、平成15年7月に「次世代育成支援対策推進法」が公布され、事業主は雇用環境の整備や取組に努めることを定められた。

ケアメン養成講座

～介護をはじめる男性へ～



9月3日、17日、
10月1日、15日、29日
(隔週火曜)
13時～16時 全5回

介護を主に担う人の3人に1人は男性という時代を迎ましたが、これまで家事に取り組んでこなかった男性が中高年となり、いざ妻や親など家族の介護を担わざるを得ない状況になった時に大きな壁に直面するといったことが起きています。

そこで今年度新たに男性向けの講座として、介護や家事に関する基礎知識を習得し、同じような悩みを抱える仲間とのネットワークづくりを後押しする講座を開講しました。

料理室やフィットネスルームなどを使い、介護や家事の実技も交えて行った全5回の講座では、慣れない介助や家事を身につけようと奮闘する姿がみられ、初回と最終日の茶話会では、お互いの状況や経験なども語り合い、「ケアメン」の輪が広がりました。

プロ グラ ム	1日目	介護の第一歩	介護の現状や介護サービスについて学ぶ
	2日目	基礎的な介護実技	介護のコツをつかむための実技 (ベッドからの起こし方、着替えの介助方法など)
	3日目	住環境の整備とリスクマネジメント	家庭で行う介護の環境づくりや福祉用具の活用法
	4日目	高齢者のための食事づくり	減塩メニューの食事づくり
	5日目	運動を中心とした介護予防	筋力低下を防止する「鍛り運動」



啓発冊子

『男の介護 そして、ケアメンになる』

発行 平成26年3月末予定(無料)



「ケアメン」とは親や妻を介護する男性のことです。

「ケアメン」になった時、どうすればよいのでしょうか。
ケアメンや、ケアメン予備軍のために介護の第一歩となる冊子をつくりました。

男性介護者だけでなく、多くの方々に読んでいただければと思います。

働くなでしこに贈る! お役立ちワシントンセミナー

8月31日(土) 13:00~16:00 ムーブ5階 小セミナールーム 【講 師】フリーアナウンサー 鮫島 宗哉さん

8月から、毎月違うテーマで働く女性にちょっと役立つ、そんな講座を毎月1回行っています。

8月31日に開催した「仕事に役立つ!声のレッスン講座」では、フリーアナウンサーの鮫島宗哉先生を講師にお招きし、呼吸法と発声法、とっさの15秒スピーチなど、グループワークを中心で講座が進められました。実践練習中心の講座だったため、受講者同士も打ち解けて和気あいあいとした雰囲気で講座が進められました。

講座実施後のアンケートでも「明日からの仕事に役立つ講座。参加して良かった」「実践が多くてめになつた」「短いスピーチをするうえでの話の組み立て方を学ぶことができた」など、受講生の満足度の非常に高い講座となりました。

【今後の予定】

3月22日(土)

「やる気を引き出す上手な叱り方、ほめ方講座」



よくわかる! 終活講座

9月6日(金)、13日(金) 14:00~16:00 ムーブ5階 小セミナールーム

【講 師】中橋海事行政事務所 行政書士 中橋 優さん

人生の最期を迎えた時に、「これでよかった」「自分らしく生きた」と思うために、自分の人生を振り返り、締めくくりに向けて準備をする、今話題の「終活」講座を開催しました。

募集開始から間もなく定員30名に達したため、急ぎよ50名まで増員することとなり、北九州市が全国的にみても最初に超高齢社会を迎えている現実や市民のニーズを実感するものとなりました。

講座に参加された方は、それぞれの置かれている状況、家族や財産のことを考え、さまざまな問題意識を持って講義を聞いたり、エンディングノートの作成に熱心に取り組んでいました。

講師の方の言葉に「終活は決断力の連続である」とあったのが印象的でした。

しっかりと正しい知識を踏まえた上で、自分にとってベストな決断をすることが、自分自身や大切な人にとって大事なことだと学んだ講座となりました。



おはなし会

12月4日(水)に、図書室で「おはなし会」を行いました。大人も子どもも一緒にになって、みんなで絵本の世界を楽しみました。



2013年度女性への暴力ゼロ運動ムーブ特別講座 「性犯罪被害にあうということ」

11月16日(土)
13:30~15:30
ムーブ5階
小セミナールーム

2013年7月、性暴力被害者に医療・心理・捜査関連・法的支援等を総合的に1カ所で提供できる「性暴力被害者支援センターふくおか」が開設されました。そこで、今年度の女性への暴力ゼロ運動ムーブ特別講座は「性犯罪被害にあうということ」と題し、性暴力被害について考える講座を開催しました。

第1部 「性犯罪被害にあうということ」

【講 師】『性犯罪被害にあうということ』『性犯罪被害とたかうということ』著者
レイブクラシスセンター つぼみ アドバイザー 小林 美佳さん

講師の小林美佳さんは、2000年24歳の時に性犯罪被害に遭い、それまでの平和な生活が一変してしまいます。暗闇がこわくて眠れない、人がこわいので電車に乗れない、食欲がなくなり1ヶ月で13キロも痩せてしまいました。しかし、一番の苦しみは被害のことを誰にも打ち明けられなかつたことでした。自分は汚い、悪い、恥ずかしい、誰にも理解してなんでもらえない…自分を責め続ける孤独のなか、インターネットを通じて同じ被害にあった仲間と出会います。暗闇が怖いのも、人が怖いのも、被害にあつたら当たり前なんだと理解しあえる仲間に出会って初めて、自分は何も悪くないと気づいたのです。

自身に向き合う中で2008年名前と顔を公表し、著書『性犯罪被害にあうということ』、続いて2010年『性犯罪被害とたかうということ』を出版。現在はインターネットを通じて多くの被害者の皆さんと交流しながら、性犯罪被害についての講演を全国各地で行っています。

小林さんは言います。「被害者が求めるのは、理解してくれる社会、人、空間ではないか。」被害直後の、警察の現場検証で、ショックで笑うことはおろか目も合わせることさえできない小林さんを、必死に笑わせようしてくれた刑事さんがいました。その時は気づかなかつたけれど、自分に向けられた優しさだったと後で気づいた時、何よりもうれしかつた。この刑事さんのように、自分のために向き合ってくれる人が世の中にいるかもしれない、信じることをあきらめてはいけないと自分に言い聞かせてきました。その刑事さんの行動、言動に本当に救われたんだと思います。」

性暴力は被害者の人権を踏みにじるもの、決して許されるものではありません。それまで普通に家族や友達と笑っていた日々を突然奪われた悔しさ、苦しみを取り除き、性犯罪被害をなくしていくため、まず被害に目を背けず被害者の気持ちを知ろうとすることが私たちの最初の一歩です。小林さんの飾らない誠実で優しい言葉から、受講者ひとりひとりがその原動力を与えられたのだと実感できる講座でした。性犯罪被害者への支援で最優先すべきことは被害者と向き合うことです。「大事な人が被害にあつてしまつた時、一番にしてほしいことは、目の前にいる人に対して何を感じているのか、何をしたいのか、何を思っているのかをその人の関係から生まれる最善の形で示してください」という小林さんのメッセージをつなげていきたいと思いました。



第2部 「性暴力被害者支援センター・ふくおかについて」

【講 師】福岡県新社会推進部生活安全課 参事補佐 岡 将平さん

福岡県が、性暴力被害にあわれた方を支援するするために設置する公的な相談窓口です。

性暴力被害は、被害後できるだけ早い段階で適切なケアを受けることが必要です。当センターでは、被害者の意思を尊重しながら、医療機関、警察、弁護士、臨床心理士や各種の犯罪被害者支援機関と連携・協力することにより、少しでも早く心身ともに回復することができるよう、必要な支援を行います。

誰にも相談できず悩んでいませんか?ひとりで悩まずに私たちにご相談ください

性暴力被害者支援センター・ふくおか

相談専用電話 092-762-0799

相談時間 9:00~24:00(年末年始を除く)

女性の相談員が対応します。秘密は厳守します。相談無料



犯罪被害者等支援
シンボルマーク



第7回「北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰」受賞者決定!!

少子高齢社会において、子どもを産み育て、男女がともに働く喜びを感じることができる社会の実現は、企業と行政が協働で取り組むべき重要な課題です。誰もが多様な働き方や暮らし方を選択でき、活力ある豊かな社会を実現するため、北九州市では、子育て支援や男女がともに働きやすい環境づくりなど、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進に取り組む企業・団体・個人を表彰し、その取組内容を広く皆様にお知らせしています。この度、平成25年度第7回の表彰者を下記のとおり決定し、去る11月9日北九州市立男女共同参画センター・ムーブにて表彰式を行いました。

企業・団体部門	市長賞	みずほ証券株式会社 北九州支店	徹底した業務の見直しと意識改革により、労働時間の短縮を実現し、捻出された時間を自己啓発にあてることで、結果として会社の業績向上も果たすという好循環を生み出している。
	奨励賞	山九株式会社 プラント事業部	労働時間平準化に向けて、専門以外の技術も習得させる「多能工化」に取り組み、業務量の偏りを減らすとともに、管理職に新たに女性を登用するなど女性の活躍を広げる取組みを進めている。
	奨励賞	学校法人清磨学園 清和幼稚園	出産・育児による退職者を再雇用する独自の制度を設け、制度利用者は現職の先生の半数を占めるなど成果が表れている。また、職場を挙げての徹底した「ノー残業デー」の取組みなど働きやすい職場環境を提供している。
個人部門	奨励賞	株式会社 不動産のデパート ひろた	女性の能力発揮のため、各部門に男女を問わず活躍の場を与えている。また、新たな評価制度を設け、自らの意思による昇進・昇格の機会を広げることで、新たな女性管理職の登用を図っている。
	ご当地 奨励賞	郷田 ふみこ 郷田 郁子	仕事での経験を生かし、出産・育児に係る勤務制度を自ら策定し、最初の制度利用者となるとともに、他の女性社員の出産・育児にもつながる結果となる。現在も4児の子育てと仕事を両立している。



お問い合わせ先

北九州市子ども家庭局男女共同参画推進課
TEL.093-582-2405



第12回福岡県男女共同参画表彰に北九州市から選ばれました!

福岡県男女共同参画表彰は、男女共同参画の推進に著しい功績があり、地域や職域における県民の皆さんの取り組みの模範となる活動を行っている企業、団体、個人を表彰するものです。このたび決定した受賞者の中から、北九州市の受賞者を紹介します。

【社会における女性の活躍推進部門】

かとう
加藤 美佐子さん



地域における女性の地位向上、活躍の推進

北九州市内107の女性団体により構成される「北九州市女性団体連絡会議」の副会長、会長を8年にわたり務め、北九州市における男女共同参画社会づくりに向けた取り組みに強力なリーダーシップを発揮した。現在も、公害克服の歴史や婦人学級など地域活動が果たしてきた役割について講演活動を続け、地域における女性の地位の向上、活躍を牽引し、女性指導者の育成に努めている。

【女性の先駆的活動部門】

ひびき灘漁業協同組合
岩屋支所あかもく部会



女性部有志による「岩屋あかもく」のブランド化

岩屋漁港沿岸に自生するアカモク(海藻)を商品化し販売。「岩屋あかもく」の知名度アップのため、イベントでの試食販売など、積極的なPR活動を行い、北九州商工会議所主催の「北九州市『食』の認定ブランド」に認定された。また、周辺環境悪化の原因となっていたアカモクの有効利用により、漁場環境を改善し、地域の食文化発展にも貢献するなど先駆的な活動を行っている。

(公財)アジア女性交流・研究フォーラムからのお知らせ

イベント
案内

◆ワールドリポート「魔法の杖」女性差別撤廃条約を地域に活かそう!

女性差別撤廃条約を地域に活かすためにどうすれば良いのか、赤松良子さんの基調講演のほか、女性差別撤廃条約に関する最新情報や行政の取り組みなど、各分野のパネリストによるパネルディスカッションを実施します。

日 時 平成26年3月6日(木)14:00~16:00

参加費 無料

会 場 ムーブ5階 大セミナールーム

託 児 あり(1人500円・要予約)

定 員 150名(先着順)

お申込み、お問い合わせ
(公財)アジア女性交流・研究フォーラム TEL.093-583-3434 FAX.093-583-5195 URL <http://www.kfaw.or.jp/>



(公財)日本ユニセフ協会会長
赤松良子さん

活動
報告

◆「第24回アジア女性会議—北九州」を開催

今年は、アジア女性交流・研究フォーラム財団設立20周年と、北九州市制50周年的記念事業として、平成25年11月9日(土)~10日(日)にわたり、「第24回アジア女性会議—北九州」を開催しました。

初日の9日は、「女性の活躍が日本、世界を変える」と題した国際シンポジウムを、北九州市と北九州市立男女共同参画センター・ムーブとの合同開催で行いました。記念講演では、経済界の女性リーダーである、NPO法人J-Win理事長の内永ゆか子さんを迎え、企業戦略としての女性活用についてお話ししていただき、続くパネルディスカッションでは、世界的に女性活躍が進んでいるノルウェーの事例と、韓国、北九州の取り組みを加え議論しました。

11月10日(日)は、北九州市と仁川広域市との姉妹都市結婚25周年事業として、「北九州市・仁川広域市女性団体文化交流会」を開催しました。

その他、20周年の当財団の活動をパネル展示し、これまでの活動を振り返りました。



◆KFAW領事館シリーズ特別篇

「最高のリーダーシップとは:女性のより一層の活躍を目指して」を開催

平成25年10月24日に、デーヴィスコミュニケーションズ社代表取締役社長兼CEOのイヴォーン・デーヴィスさんをお招きし、講演会を実施しました。

リーダーになるために必要なこと、コミュニケーションにおける性差、職場や組織の中でリーダーシップを発揮するための戦略などについてお話ししていただき、参加者からも積極的に意見が出るなど、非常に有意義な対話型セミナーとなりました。



* レディス もじ からのお知らせ

レディスもじ 開館27周年記念講演会

「仕事も家庭も一生懸命」 ～出会いの人生から学んだこと～

仕事と家庭をバランスよく楽しんでいる講師に、男女ともに、無理せず幸せに生きる社会の実現についてお話ししていただきます。

日 時 平成26年4月12日(土)

13:30~15:00(12:30開場)

講 師 弁護士

菊地 幸夫さん

定 員 300名(先着順)

参加費用 無料

託 児 あり(1歳以上就学前まで)

お申込み時にご相談ください。

申込方法 3月4日(火)9:00から電話または来館にて受付。

北九州市立東部勤労婦人センター・レディスもじ

〒800-0051 北九州市門司区下馬町6番8号

TEL.093-371-4649 FAX.093-371-4268

<http://kinroufujin-kitakyu.jp/moji/>



指定管理者 (公財)アジア女性交流・研究フォーラム

* レディス やはた からのお知らせ

レディスやはた 開館37周年記念講演会

「もっとやさしく、もっと自由に」 ～共に生きる社会をめざして～

ライフスタイルが多様化した現代における女性の自立・男性の自立を、

「今」という時代を読み解きながらご講演いただきます。

日 時 平成26年5月24日(土)

13:30~15:00(13:00開場)

講 師 精神科医・立教大学教授

香山 リカさん

定 員 200名(先着順)

参加費用 無料

託 児 あり(1歳以上就学前まで)

お申込み時にご相談ください。

申込方法 4月3日(木)9:00から電話または来館にて受付。

北九州市立西部勤労婦人センター・レディスやはた

〒805-0059 北九州市八幡東区尾倉二丁目6番6号

TEL.093-661-1122 FAX.093-661-2714

<http://kinroufujin-kitakyu.jp/yahata/>

